

# フェアトレードを広め、次世代へフェアな社会をつなぐ活動

— 『特定非営利活動法人 フェアトレード名古屋ネットワーク』 —

途上国で作られた製品や原料を適正な価格で購入し、途上国の人々の自立を支援する取り引きをフェアトレード(公平な取り引き)といいます。このフェアトレード普及に、まちを挙げて取り組む「フェアトレードタウン運動」が各地で活発になっています。名古屋市でも始まったこのフェアトレードタウン運動を継続していくために、NPO法人 フェアトレード名古屋ネットワーク(以下、FTNN)が誕生しました。

なぜ「フェア」が必要か?

本来の取り引きは、お互いにフェア(公平)な条件で行うもの。では、なぜわざわざ「フェア」をつける必要があるのでしょうか?フェアトレードの背景には、先進国の相場や仲買人の買い叩きで価格を安く抑えられる、多国籍企業により途上国の労働者が過酷な労働を強いられるなど、途上国からみたらアンフェア(不公平)なことがあります。

フェアトレードの基準となるのは価格だけではなく、環境に配慮した方法で生産されているか、労働者の人権が守られているか、なども含まれます。フェアトレード商品で代表的なものは、コーヒー・紅茶・チョコレート・ドライフルーツなどの食品です。またデザインや種類の豊富な雑貨や服にもフェアトレード商品があります。

フェアトレードタウン運動

フェアトレードタウン運動は、イギリスのガースタングから始まりました。2000年にガースタングがフェアトレードタウン宣言をしてから、現在では世界で



名古屋市の河村市長がフェアトレードタウン化を支持した瞬間

1800以上のフェアトレードタウンが生まれました。日本では2011年6月に熊本市が初めてフェアトレードタウンに認定されました。

名古屋市では、2009年頃からフェアトレードタウンを目指す市民の動きが起こりました。FTNNの前身となる団体の一つを、タレントの原田さとみさんが立ち上げ、以前から活動していた他の三つの団体と一緒にFTNNが生まれました。そして、タウン認定のための活動が本格的に展開され、昨年2015年9月に晴れてフェアトレードタウンとして認定されました。原田さんはその後、フェアトレード商品を扱う会社を設立し、テレビ塔の1階で「エシカル・ペネロプ」というセレクトショップを開店しました。今では、エシカル・ペネロプは名古屋のフェアトレードタウン運動の中心的存在になっています。

フェアトレードタウンに認定されたことは、あくまでフェアトレードを普及させる手段の一つで、具体的な活動は今後も継続していく必要があります。また、3年ごとに認定の更新作業に対応しなければなりません。そこで、FTNNは活動基盤の強化を図るため、今年6月に法人格を取得しました。

地域と世界の問題に同時に取り組む

1999年、名古屋市はゴミ非常事態宣言を発表しました。私たちの社会が環境に対してアンフェアを押し付けてきた結果、ゴミ処理が大きな課題となったのです。以来、名古屋市では環境問題の解決に力を入れて取り組んできました。「環境デーなごや」もその一つです。

一方でフェアトレードも環境問題と重なる部分が大いと言えます。過度なグローバル化の副作用として、途上国の人と環境に負担がかかりすぎ、その解決策の一つがフェアトレードなのです。

つまり、名古屋市では環境問題とフェアトレードはとても馴染みやすいテーマで、フェアトレードタウン運動を通じて、身近な環境問題にも関心を持ってもらえることが期待できます。人にも環境にも、世界にも地域にもフェアであること。今後はこういった視点をどれだけ広げることができるかが、フェアトレードタウン運動の成否に直結するでしょう。

行政と企業の協力

フェアトレードタウン認定後は名古屋市環境局にフェアトレード推進の担当窓口ができ、市民団体と共に活動しています。2000年から毎年開催されている名古屋市主催のイベント「環境デーなごや」では、今年からフェアトレードのエリアをテレビ塔下一帯に広げて「秋のフェアトレードタウンまつり」と題して開催されたほどです。また名古屋市の学校給食でフェアトレードのごまが使われるようになりましたが、これも名古屋市教育委員会の協力なしには実現できませんでした。

企業との連携も重要です。給食に採用されたフェアトレードのごまは、大手スーパーのアピタとピアゴでも取り扱いが始まりました。また大手百貨店・三越の催事場でもフェアトレードをテーマとしたイベントが開催されるなど、フェアトレード普及に協力的な企業も増えてきています。

「企画・広報・運営・資金集めなど、私たちNPOだけで実施するのではなく、さまざまな分野の仲間たちとネットワークを組んで活動していくことを大事にしています。フェアトレードタウン運動は、途上国の不平等問題を知り行動することで、自分たちの足元の課題に気づかせてくれます。私たちの日々の消費行動は、世界と繋がっています。企業の協力も欠かせません」と原田さんは言います。

商品も組織も課題いろいろ

商品のデザインや品質はこれからさらに改善されていくと思います。「途上国の支援になるから」という理由だけではなく、「すてき」「おいしい」など、商品の魅力で買ってもらえるものを増やし、そういった商品を扱うお店が増えることによって、より多くの皆さんに関心を持っていただけるようになるでしょう。このあたりは、原田さんがショップ運営という立場から取引先と連携して取り組んでくれそうです。

フェアトレードタウン運動には、学生も多く関わっ



フェアトレードイベントでのパネルディスカッション

ていますが、進学や就職に伴って活動できなくなるメンバーもいます。今後の組織運営を担ってくれる人材を集めることが当面の課題だということです。事務局ボランティアスタッフも募集しています。フェアトレードに関心のある方は、ぜひ問い合わせてください。活動を通じて、フェアトレードのことがもっと深く分かるようになるかもしれません。

## Information

特定非営利活動法人  
フェアトレード名古屋ネットワーク  
〒460-0003  
名古屋市中区錦3-6-15先 名古屋テレビ塔1階  
エシカル・ペネロプ 内  
TEL/FAX: 052-972-7350  
E-mail: staff.ftnn@gmail.com  
ホームページ: <http://www.ftnn.net/>



代表の原田さとみさん エシカル・ペネロプにて